

マルチトラックデータ制作時の注意点①

1. Mixに関わるエフェクトは外しておく
 - ✓ 音質調整のためのEQ&コンプ、空間系、イメージャーなどはオフにする
2. ざっくりとバランスをとっておく
 - ✓ 全トラックを0dBで並べた状態で意図したバランスになるように
3. パンはセンターに戻しておく
 - ✓ パンはMixで振るもの。全てセンターに戻しておこう
4. 全パートスタート位置を揃えてオーディオ化する
 - ✓ 頭揃えで並べた状態で縦が揃うように

マルチトラックデータ制作時の注意点②

5. 各ファイルの音量レベルに注意する

- ✓ あまりにも小さすぎると音質が劣化する可能性も

6. ステレオである必要のないトラックはモノラル化しておく

- ✓ 点で定位させたいトラックはモノラルに

7. ファイル名を正しくつける

- ✓ ファイル名から内容が即座に判別できるよう配慮を

8. 書き出し時のフォーマットに注意する

- ✓ サンプリングレート、ビットレートをあらかじめ確認する

オーディオ化することによるメリット

① 波形編集による細かいエディットが可能になる

- ✓ 不要な部分を切り落としたり、音の切れ端を揃えるなど、MIDIだけでは面倒な細かいエディットが可能に。

② 不規則なサウンドの変化を固定できる

- ✓ ランダムにサウンドが変化するような音色、アルペジエーターやループもの、リバーブ系の音色などはオーディオ化してサウンドを固定した方が扱いやすい。

③ モノラル化できる

- ✓ 音そのものがモノラルだがステレオ出力しかできないソフトシンセもあるため、そのようなトラックはオーディオ化したのちモノラル化するのがおすすめ。

④ 再生環境が変わっても同じ音を再現できる

- ✓ エンジニアさんなど他者にデータを渡す場合、相手も同じソフトシンセを所有しているとは限らない。そんな場合も、オーディオにしてしまえば安心。自身の制作環境をアップデートした場合にも役立つ。